

日本における介護施設での、生活の質、日常生活動作度、介護費、医療費に認知症の重症度が与える影響の評価

芦澤匠1), 阪田幸則2), 東美恵2), 藤本健一2), 富田清行2), 小林司3), 五十嵐中1), 4)

- 1) 東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学教室
- 2) エーザイ株式会社
- 3) 株式会社らいふ
- 4) 横浜市立大学医学部医学科健康社会学ユニット

■背景

- 日本は、65歳以上人口の割合が世界で最も高い国である。また、2018年時点で、65歳以上の高齢者のうち28.1%が認知症患者であるとされている。
- この割合は2025年には、30.0%に達すると推計されている。
- この研究は、認知症の重症度が、生活の質（Quality of life, QoL）、日常生活動作度（Activity daily living, ADL）、年間の医療費、年間の介護費に与える影響を評価することを目的としている。

■Method

- 株式会社らいふ（らいふ）の運営する介護施設に入居されている方、2,114名を対象に調査を実施した。
- 入居者のQoL、ADLは、EQ-5D-5L（EQ5D）、パーセルインデックス（BI）を用いてそれぞれ評価した。
- ミニメンタルステートメントテスト（MMSE）を用いて認知症の重症度を評価した。
- らいふは医療費立替サービスを提供している。2018年12月から2019年9月の間のサービス利用記録を用いて、年間の医療費を推計した。
- 年間の医療費は、2019年3月の介護給付費明細書から推計した。
- MMSEの値により、軽度（ $21 \leq \text{MMSE} \leq 30$ ）、中等度（ $11 \leq \text{MMSE} \leq 20$ ）、重度（ $0 \leq \text{MMSE} \leq 10$ ）に分け、Shirley-Williams検定を行った（ $p=0.05$ ）

■Result

- 調査は2019年3月に実施され、全項目に回答のあった方は1,499名となった。
- 医療費立替サービスの利用履歴があった方は593名、介護給付費明細書が取得できた方は1,424名であった。
- MMSE値を用いると、軽度は567名（ 84.9 ± 8.7 歳、女性割合67.5%）、中等度は492名（ 87.3 ± 6.9 歳、女性割合73.8%）、重度は440名（ 87.4 ± 7.7 歳、女性割合73.0%）に分けられた。
- EQ5D値の平均は、軽度、中等度、重度でそれぞれ、0.75、0.63、0.40となった。
- BI値の平均は、軽度、中等度、重度でそれぞれ、78.7、62.4、24.9となった。
- 年間の医療費の平均は、軽度、中等度、重度でそれぞれ、107,640円、125,860円、120,820円であった。
- 年間の介護費の平均は、軽度、中等度、重度でそれぞれ、2.066百万円、2.363百万円、2.799百万円であった。
- EQ5D値とBI値は、認知症が重症化するにつれて、統計的に有意に減少した。年間の介護費は、同様に有意に増加した。
- 一方で、年間の医療費は、統計的な有意差はなかった。

表1 入居者の背景

	全体	軽度	中等度	重度
人数	1,499	567	492	440
年齢 (平均(SD))	86.4 (8.0)	84.9 (8.7)	87.3 (6.9)	87.4 (7.7)
性別 (女性割合 %)	71.1%	67.5%	73.8%	73.0%
要介護度が 3以上の割合 (割合 %)	44.0%	27.1%	36.6%	73.1%
既往歴がある割合 (割合 %)	89.9%	89.2%	90.9%	89.8%
EQ5D値 (平均(SD))	0.61 (0.27)	0.75 (0.23)	0.63 (0.24)	0.40 (0.20)
BI値 (Mean(SD))	57.6 (34.6)	78.7 (23.9)	62.4 (28.7)	24.9 (27.5)

図1 MMSEごとの人数

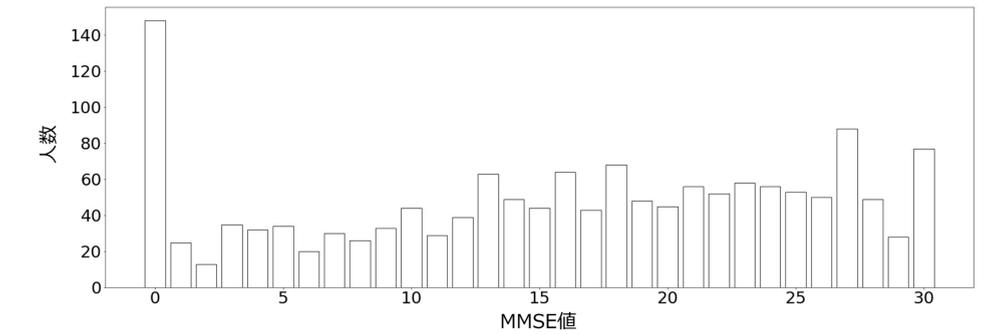


Figure2

認知症の重症度ごとのEQ5D値

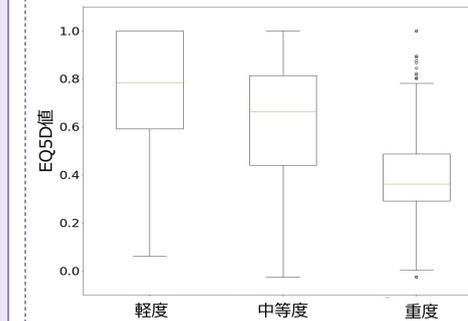


Figure3

認知症の重症度ごとのBI値

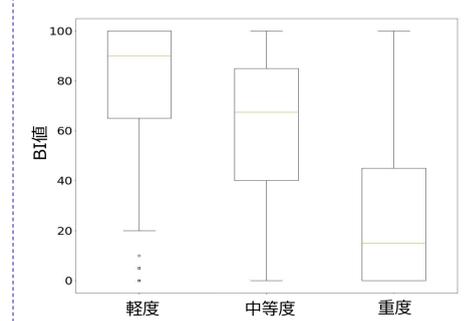


Figure4

認知症の重症度ごとの年間の医療費

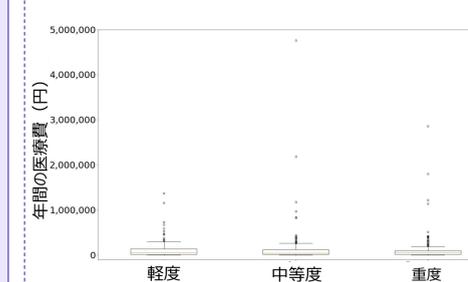
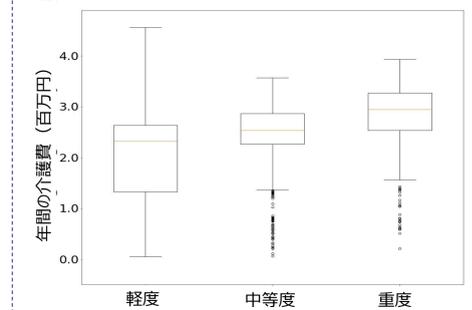


Figure5

認知症の重症度ごとの年間の介護費



■Conclusion

認知症の重症化は、QoLやADLを損なう。また、介護費の増加に影響を与える。一方で、認知症の重症化は医療費には影響を与えない。